



特集 テーマ

伝えていこう! 地域の物語

平成26年9月20日発行(昭和51年12月1日発行)

長野市古牧地区の小学生が毎年熱演!

「にとはちさま」の物語

地域のみんなの幸せを願い、勇気をもって行動した

おらがこの村の人々を救ってやる!

長野市古牧地区の人たちが大切にしてきた物語「にとはちさま」。地区の保存会の人と一緒に、長野市立古牧小、緑ヶ丘小、南部小の3小学校が毎年順番に「にとはちさま」の劇を上演しています。第13回目の平成26年は、南部小の劇団スターが上演しました。



このまま三斗の年貢を続けていたら、たくさんの死人が出るに違いない。

江戸時代のこと。善光寺平の農民たちは、松代藩による「初一俵」は玄米三斗という重い年貢に苦しんでいました。農民らは相談をして、年貢を軽くしてほしいと、直接江戸幕府に訴えることにしました。その先頭に立ったのが、18歳の助弥です。

助弥さんが、命をかけて守りたかったのが、このふるさとなんだね。

「にとはちさま」の願いとともに 私たちはみんな、この地域があるから生きているんです!

許してくれ、おっ母!



訴えの先頭に立ったら、自分も家族も処刑されてしまいます。助弥のたった一人の家族であるお母さんは、息子の決心が鈍らないようにと自害してしまいます。

ほら、おっ母! 「にとはちさま」の願いは、おっ母! 助弥さんたちは処刑されてしまったのです。

みんなが幸せに生きていくために、勇気をもって行動した助弥に感謝して、村の人たちは小さな神社を建てて、役人には気づかれないよう「にとはちさま」と親しく呼びました。今でもその神社は、地域の心に大切にされています。

足りない分は、百姓が他から工面して納めているんだ!



江戸行きに変わった村人も、助弥も捕らえられてしまいました。取り調べの場で、助弥は白を回し、初一俵からは玄米が「三斗」ではなく、「二斗八升」しか取れないことを証明しました。

いいか! 二斗八升だぞ!

私たちの心の中に今も「にとはちさま」は生き続けているのです!

みんなの地域にも昔から大切にしてきたものがいっぱいあるんだろうな。みんな伝えていこう!



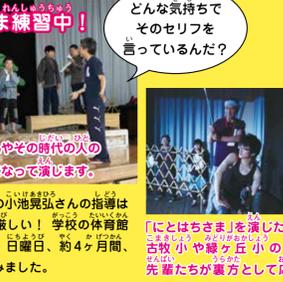
「にとはちさま」の願いとともに



ただいま練習中!



どんな気持ちでそのセリフを言っているんだ?



一生けん命やっている姿が胸にします。



今年の古牧小の上演はハズレなし! 高学年は超巨大小のおんなです。よろしくね!



代表委員会のアルミ缶回収準備

*協力: 古牧地区にとはちさま保存会、長野市立南部小学校 *写真提供: 山浦剛典さん

各校のボランティア・地域活動の紹介

松本市立 二子小学校

合言葉は「ふれあい」

広げよう! 「仲良しの輪=和」



▲船をイメージした二子小の校舎



4年生の太鼓演奏発表



なかよし委員会の施設訪問

地域講師の方とのクラブ活動

全校縦割り班のふれあい活動

卓球・手芸などを地域の方々に教えていただいています。児童会なかよし委員会では、近くの介護老人福祉施設へ行って交流を楽しむ活動を行っています。4年生は、和太鼓に取り組み、音楽会をはじめ、地区の文化祭や介護老人福祉施設で演奏しています。この太鼓は、10年以上前に地域の方から教えていただきました。今では学校の伝統として根つき、毎年秋に3年生が4年生から太鼓の技を引き継ぎます。私たちはこれをとても誇りに感じ、大事に受け継いでいこうと思っています。これからももっと「仲良しの輪=和」を広げていけるようがんばってまいります。

一子小学校では、「ふれあい」を合言葉に「仲良しの輪=和」を広げる活動に取り組んでいます。全校縦割り班の「ふれあい活動」では、6年生のリーダーを中心に、遊びやお弁当の会食と一緒に楽しんでいます。児童会では、「つなげよう二子小の和」をテーマに、姉妹学級や縦割り班のつながりをいかにしながら全校が仲良くなるような集会を催しています。私たちの「仲良しの輪=和」は、学校の外にも広がっています。クラブでは、手品や

私たちの学校では、こんな活動をしています。

上田市立 長小学校

アルミ缶でつながるふれあいの輪

地域の福祉施設との交流



キーボードとポータブルトイレを贈呈



ライフステージかりがねの皆さんとの交流会



今日もたくさん集まったね!

代表委員会のアルミ缶回収準備

長小学校では、児童会活動で11年前からアルミ缶回収を行っています。代表委員会が全校に呼びかけ、各家庭から回収します。全校児童115名の小さな学校ですが、昨年度は1年間で約679kgのアルミ缶を集め、49,245円の収益を得ることができました。そのお金で、地域の福祉施設、ライフステージかりがねと真田グループホームに、キーボードとポータブルトイレを贈りました。7月に6年生14名は、ライフステージかりがねの皆さんとの交流会に参加しました。はじめはどのように声をかけ、ふれあったらいいかわからず、緊張していました。でも、以前に贈った車いすやボールなどのレクリエーション用品を使ったゲームをし、お互いにふれあうことで、楽しみながら自然とコミュニケーションがとれるようになりました。交流を終えて、「アルミ缶回収をもっとがんばりたい!」「施設の方々のほいほいものが贈れるようにアルミ缶集めを呼びかけたい!」という思いを持ちました。今後もふれあいの輪を大事にしながら、全校でアルミ缶回収をがんばっていきます。

エネルギーについて、福島の子と話し合いました。須城市立 森上小学校の取り組み

あの震災を忘れないで

ほかの県の人とエネルギーの話ができてうれいです。

原子力発電所で、事故が起きると、どんな影響があるのでしょうか。福島県の人たちが事故によってどのような気持ちで過ごしたり、経験したりしたのかを直接聞いてみました。

福島の様子

福島の子どもたちの話

事故の後、地元の食べ物、運動会も外ではできない。事故の後の生活も、検査を受けてから食べるようになりました。

福島の子どもたちの話

原子力発電所については、どう思う?

●どんなに気を付けても、事故が起きる危険性は高くない。 ●いつかはなくなってしまう。でも、事故が起きると、生活が壊れてしまう。 ●日本は水が豊かだから、水が汚れても大丈夫。 ●日本は水が豊かだから、水が汚れても大丈夫。

福島の子どもたちの話

福島の子どもたち、福島の子どもたち、福島の子どもたち。

福島の子どもたちの話

福島の子どもたち、福島の子どもたち、福島の子どもたち。

18歳までの子どもがかけられる「子ども専用電話」

チャイルドライン

フリーダイヤル 0120-99-7777

困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。

★ちょっといいことでも、名前を言わなくてもいいので安心して話してください。

★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。

みんなにカードが届くよ、フリーダイヤルでかけてね!

チャイルドラインはみんなの赤い羽根共同募金が設立されています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう!

長野県社会福祉協議会

〒380-0928 長野市若里7-1-7 県社会福祉総合センター内 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130 電子メール vcenter@nsyakyu.or.jp ホームページ http://www.nsyakyu.or.jp

公益社団法人 信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町1098 TEL.026-232-6994 ホームページ http://www.shinkyu.or.jp/

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDFファイルとしてダウンロードできます。どうぞご利用ください。

http://www.nsyakyu.or.jp